

# 人に個性が

「景観」とは難しい言葉ですが、まちのおしゃれ、みだしなみと考えてください。人は場所や目的に応じて、自分の個性にあわせておしゃれを楽しみます。同じように、地域にもそれぞれの個性があります。

# あるように、

その個性を生かし、「らしさ」にこだわりながら、調和を考えたまちづくりをすすめること、これが「まちのおしゃれ・みだしなみ」ではないでしょうか。県では、くまもとらしいまちにするために、

# まちや地域にも

「熊本県景観条例」を制定し、いろいろな取組みを進めています。県民の皆様にある一定行為についての届出や、景観上の配慮をお願いしたり、

# ふさわしい

いろいろと「協力いただく内容になっておりますが、一人一人の「おしゃれ・みだしなみ」に対する配慮が最も必要なことではないでしょうか。この景観条例は県レベルでは、滋賀県・兵庫県について三番目にできましたが、

# おしゃれが

その内容は、他県にない独自のものになっていて全国的に注目を集めています。是非、みんなの力で、「くまもと」という言葉自体が誇りとなるような、そんなまちなみづくりを進めてみましょう。

# あったっていいよね。

「一、三日東京に出ていて、熊本に帰ってきたら、東京とはうってかわって春のまったなかである。うぐいす、ひばり、なすな、たんぼぼ、すみれ、とかげ。わたしが生まれて育ったのは、東京の工場と人の家がたてこんだ場所である。バスに乗って荒川に行けば、かえるの卵やへびいもがあった。それが最高の自然だった。しかし、学校で習う歌には、「なのは畑に入り日うすれ」や「きーし

のすみれやれんげの花に」が出てくる。どこへいってもそんなものは見当たらない。ところが、こうして熊本に住みついてみると、「うさぎ追いかの山」ほどではないにしても、「ひばり」「つくし」「かえる」「すみれ」ていどは、日常茶飯事であ

## うさぎ追いか

## 伊藤比呂美(詩人)

る。日常茶飯事でなかった東京が異常だったのだということに、わたしは気がついた。やっつと。つまり歌たちはけつていた。夢物語やノスタルジーだけでなりたっているのではなく(わたしはそうだと思っていた)、作った人はいちおう日常茶飯事

を歌おうとしたのであろうということにも気がついたのである。しかし「うさぎ追いかの山」が、せいぜい「ひばり」や「つくし」はあります。すいませうというところまで、確実に荒廃あるいは開発している。この開発あるいは荒廃はどんどんすすんで、東京みたくになるのかわからないのか、なるような気もするし、このまま猶予されて残されるような気もする。(毎日新聞62・3・24)

